

当協会の目的と設立趣旨について

先物の勉強を教える趣旨(協会の設立趣旨)

個人投資家は、何も知らずに安易に大金を市場に投入(投資)してしまいます。

それをする前に、勉強 ⇒ 資格程度の投資知識を持っておくことがもっとも重要なのです。

例題) 腐った木の橋と、石の橋があるとします。渡れば果実が得られます。あなたはどちらを渡りますか？

「そりゃあ、腐った木の橋は渡らないよ。落ちるかも知れないから、当然石の橋さ！」

と、お答えになると思います。

勿論正解です。 イソップ童話のような例題ですが、さて、

ですが、これが幼稚園児だったら、どうでしょうか？

幼稚園児の頃は、「腐った木の橋は危ない。石の橋は固くて安全」ということさえ知りません。

そうです。知識として、知らないのです。

大人は、成長する過程で、いろいろ聞いたり読んだり、親から教えられたり、勉強したりで、**危険・安全**、という知識を身につけ、わかって来ているのですが、

歩き始めのヨチヨチの頃から幼稚園児の頃までは、「**社会には危険が沢山ある。**」ということさえ知らないのです。

相場/株式投資も、実は同じなんです。 **相当に危険なこと**なんですが、

初心者は「株が上がっている」「儲けた人が多いらしい」とかの**欲と興味**だけで**大事なお金をすぐ入れよう**とします。本当に簡単にに入れてしまうのです。

買い物では、ずんぶんと悩んだり節約もするのに、不思議と株にすぐ入れようとする。これは古今東西、欧米でも同じです。 by ジェシー・リバモア

では、**安全に投資するには、何が重要か**です。？

一番早くて、一番良いのは、

「**腐った木の橋を渡って落ちた人**を参考にする。石の橋を渡って安全に渡れた人を参考にする。」=**その人と同じ失敗した轍を踏まない。安全に渡れた人と同じ行動をする。**

ということですね。

では、ここでまた例題です。

「腐った木の橋を渡って、落ちた人を参考にするにはどうすれば？」

「石の橋を渡って、安全に渡れた人を参考にするには、誰を？」

=「腐った木の橋を渡って落ちた人を見つけることです。」

=「石の橋を渡って安全に渡れた人を見つけることです。」

それは、当協会の公式テキストについて勉強することで、ふたりの人が分かって来ます。その行動と法則がわかります。当協会の公式テキストは、それが書いてあるのです。

ところが、こういうことを教える学べるという本すら、兜町開闢以来、我が国にはきちんとしたひとつの公式書籍もありませんでした。

*明治11年(1878年)、東京実業界の有力者であった渋沢栄一・三井養之助らの出願により、大隈重信の免許を受け、兜町に東京株式取引所が誕生。以来、138年。ずっとそうです。また、そうしたことを学べる学校はおろか塾のようなものでも、きちんとしたものはほとんどありませんでした。

ところが一方、米国では、100年前にすでにジェシー・リバモアやエリオットやギャンなど、論理的かつ明快な個人投資家用のテキストが、すでに存在していたのです。

さらに、アメリカにはウォール街への就職の為の学校のような、投資をきちんと学べるバーバード大学別校のバーバードビジネススクールという投資ビジネス専門教育学校(大学レベル)なども多くあります。

大学で経済学理論を学んでも、経済学数式を学んでも社会ではほとんど役に立ちません。それより、実践に即した高等教育をする。それが日米の差なのです。

相場は、株式投資は、公道を自動車で走るようなものなのです。

しかし初心者(無免許)も大胆に スピードを出します(大金を単純賭けてしまう)

それは、大型トラック(外資)や危ない歩行者(仕手筋)や、

ビュンビュン飛ばす車(セミプロや株屋)や、いろいろいる中で、免許(投資の勉強)も無しに、

自賠償も入らず運転するようなものです。

免許を有して自賠償ぐらい入らなくちゃ駄目です。 事故したらどうしますか？

大変です。破産します。

それに自賠償以外の自動車保険も入っとかなけりゃいけないですね。

自分が大怪我したらどうする？入院も家族の生活費も、仕事も。ということになります。 車なら誰でも普通入ってるじゃないですか。

保険(先物投資の勉強と知識)も入らないで 車走らせてると、FXじゃなくて株でも一晩で証拠金飛びます。

個人投資家の動向をよく表したこんな図があります。まさにこのとおりの**狼狽**に終始していませんか？



ですのに、過去現在においても、日本の証券会社は何も教えず、

ただ、「投資しましょう！」「投信を買いましょう！」「信用取引できます！」ばかりで来ています。

某証券会社さん



信用取引はリスクがあるのに…。

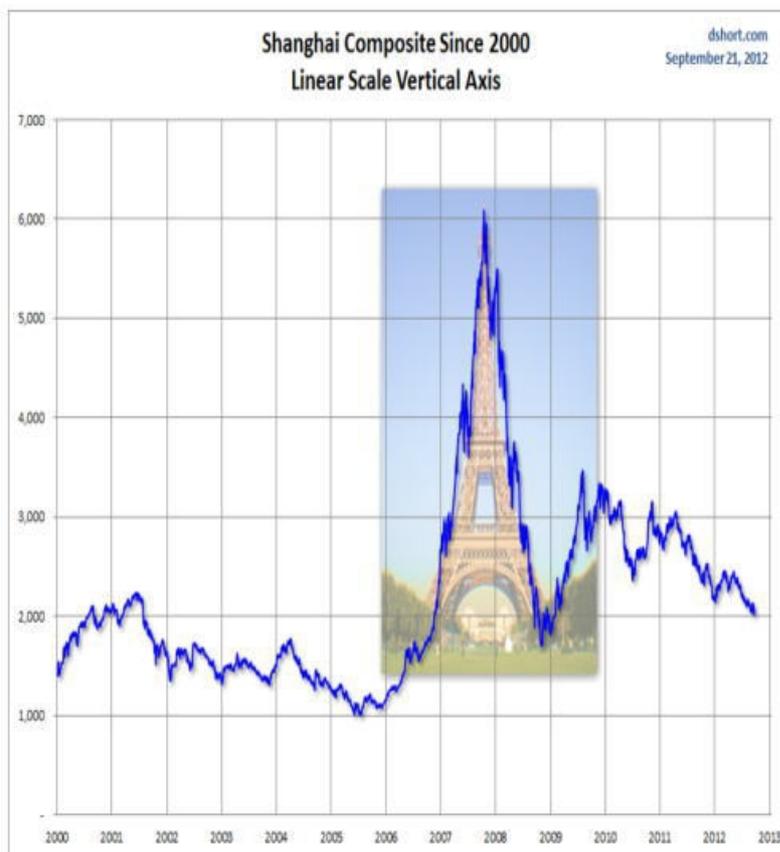
そして、個人投資家は、特に日本の個人投資家は、何も知らずに安易に大金を市

場に投入(投資)します。



証券会社はリスクも知識も何も教えず、

あげくに、最近の中国株の波乱では、いきなり、「今日から当該中国投信の **解約は不可**」と宣告しています。ひどいものです。



○

当協会は

「個人投資家に対して中立な立場で、**本当に必要な知識とリスクを教えたい。良いと思える内容のみを提供したい**」

というポリシーのもとで運営しています。

その中でも、特にこだわっているのが「個人投資家の立場で」ということです。

私達も個人投資家として、今まで長年色々なサイトや本を見てきましたが、

「個人投資家側に立った」サイトがあまりにも少ないことにあらためて驚きました。

例えば、金融商品の格付けにしても、評価される側の企業からお金をもらって格付けをしていたり..

商品を売りたいために、投資データの都合のよい部分だけを使用したり.....

こんな「売り側に立った」サイトや本が結構あります。ほとんどです。

このような事は投資の世界に限らず、当たり前でしたが、

だからこそ、純粋に「個人投資家に立った」を必要な知識とリスクを教えたい。と思っています。

当協会はリスクも知識も丁寧に教えて行く、健全な個人投資家を指導し、そして儲かるようなトレード技術を教え学んで戴く。

それら個人投資家たちによる勉強のご指導推進を目指しています。そうして行きたいと考えます。

それらを当協会が教えたいと思います。



投資をする前に勉強 ⇒ 当協会の認定資格程度の知識を有すべきだからです。

当協会は、最低限度、当協会の公式テキスト程度の知識を持っていないとトレードは危険ですよ。

ですから、当協会の公式テキストで、それを頭に入れてトレードしましょう。

ということを目指しています。



かつ専門を目指したい。であれば、より高度にと。

系統だって、重要な部分を教えていくことにより、

安全なトレード、健全な投資のスキルも上がり、自己のスキルアップにもなって行きますし、

一定以上のレベルまで向上することで、**塾・セミナー教室も開業できて**、
より一層、多くの個人投資家の為になることが広がっていく。



これを目指しています。

今後の日本経済発展の為にもそれが無ければならない。

明治11年(1878年)兜町に東京株式取引所が誕生して以来137年。しかし今まできちんとした投資を教えるところは皆無だった日本。

特に、個人投資家は長年に渡り悲惨でした。投資の為の手引きも論理的なものは無くバラバラでした。

チャートも罫線と呼ばれ蔑まれ、兜町の街頭で、競馬競輪の予想屋のように、街角に立て看板・差し棒で露店営業していたほどです。

一方、米国では、100年前のジェシーリバモアやエリオットなど、論理的かつ明快な個人投資家用のテキストが存在していました。

現代、日本でも有名な移動平均線(MA/ムービングアベレージ)理論を発表したグランビルなどもあります。



ジョセフ・グランビル(1923年－2013年)

彼らは大学の経済学者ほどの信用と名誉で讃えられて、今でもウォール街を目指す若者には彼らの理論書は必須の学習書になっています。

勿論、彼らはチャートも重視し、日本の酒田足も英訳してすべて必須知識として学んでいます。

(例) Bearish Evening Doji Star/三川宵の十字星、Bearish Evening Star/三川宵の明星

⇒ [Technical Analysis](#)

そこで、日本でも信頼できるテキストを提供し、全国各地の塾などによるきちんとした指導を通じて、個人投資家達に懇切丁寧に投資の方法とリスクを教えて行く。

今後の日本経済発展の為にもそれが無ければならない。

現代版「寺子屋」の教育推進ですが、当協会はそれを目指すものであり、それが協会の趣旨なのです。

そして当協会は発足することになりました。